

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年2月8日

【四半期会計期間】 第79期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

【会社名】 日本電計株式会社

【英訳名】 NIHON DENKEI CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森田 幸哉

【本店の所在の場所】 東京都台東区上野5丁目14番12号

【電話番号】 03 - 5816 - 3551 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 秋山 昌彦

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区上野5丁目14番12号

【電話番号】 03 - 5816 - 3551 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 秋山 昌彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期 第3四半期 連結累計期間	第79期 第3四半期 連結累計期間	第78期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	71,856,419	73,403,889	104,778,430
経常利益 (千円)	2,586,654	2,812,671	3,996,014
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	1,718,563	1,998,834	2,905,209
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,476,430	2,584,776	3,305,669
純資産額 (千円)	25,202,469	27,598,316	25,996,074
総資産額 (千円)	62,129,947	63,607,405	64,110,405
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	146.47	172.88	248.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	170.93	247.00
自己資本比率 (%)	39.3	42.0	39.3

回次	第78期 第3四半期 連結会計期間	第79期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	57.89	74.85

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 第78期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における経営環境は、新型コロナウイルス禍からの経済活動の正常化が進む中、景気は一部に足踏みがみられたものの緩やかに回復しました。しかしながら、経済の先行きに関しては、物価高や人手不足、転換期を迎える我が国及び欧米各国の金融政策、中国や欧州の景気停滞、米中対立激化やウクライナ・中東情勢を背景とする地政学リスクの高まり等、極めて不透明な状況となっております。

当社グループが属する電子計測器、電源機器、環境試験機器等の業界におきましては、製造業全般の生産自動化等を企図した設備投資や成長分野への研究開発投資が底堅く推移する中、当社の主要ユーザーである自動車業界では、世界的な脱炭素化の流れを受け、EVや燃料電池等の次世代自動車に係る開発やADAS・自動運転の技術開発には引き続き積極的な投資が見込まれております。また電子・電機業界では、様々な分野で電子化・デジタル化の流れが加速しており、5Gに関連する社会インフラの整備や、IoT等の投資の拡大が引き続き期待されております。しかしながら、世界的な景気減速懸念等を背景に、設備投資の執行にやや慎重な動きがみられ、当社の受注にも一部影響が生じており、引き続き動向を注視しております。

このような状況下、当社グループは、パーパス「計測技術で社会に貢献」、ビジョン「テクニカル商社への転身」を掲げた企業理念に基づき、中期経営計画の最終年度として、計測機器を主体とする基盤ビジネスの強化に加え、事業領域の拡大を企図した成長戦略を遂行しております。具体的には、次世代自動車市場、ADAS・自動運転市場、IoT市場、次世代通信5G市場を4つの重点市場と捉え、理化学、エンジニアリング、EMC、受託試験、インテグレートという5つの事業を推進すると共に、お客様のニーズにスピーディーかつワールドワイドにお応えするグローバル展開の強化を図っております。今後も、成長戦略遂行による収益力増強と、経営基盤強化の両立を目指し、業界のリーディングカンパニーとして企業価値向上を図る所存であります。

この結果、個別では売上高60,694百万円（前年同四半期比1.6%増）となり、粗利益率は前年同四半期比0.5%向上したことから、売上総利益は前年同四半期比422百万円増加しました。一方経費面では、人的資本投資や経営基盤強化のためのシステム関連投資等を積極的に行い、またコロナ禍からの営業活動の本格稼働に伴う出張費や広告宣伝費等も増加したため、営業利益は1,962百万円（前年同四半期比141百万円減）となりました。加えて、円安に伴う為替差益が前期よりも減少したため、経常利益は2,287百万円（前年同四半期比154百万円減）となりました。国内子会社では、校正サービスを請負うユウアイ電子株式会社が堅調な業績を確保し、その他の子会社も低水準ながら利益を確保しました。海外子会社では、中国は春以降の景気減速の影響等から受注は弱含みましたが業績は増収増益を確保し、その他地域も全体として増収増益を維持しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は73,403百万円（前年同四半期比2.2%増）となりました。営業利益は2,607百万円（前年同四半期比168百万円増）、経常利益は2,812百万円（前年同四半期比226百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,998百万円（前年同四半期比280百万円増）となりました。

セグメントの業績は、セグメント間の内部取引も含めて次のとおりであります。

日本

日本では、新型コロナウイルス禍からの経済活動の正常化が進む中、景気は一部に足踏みがみられたものの緩やかな回復が続きました。当社グループが属する電子計測器、電源機器、環境試験機器等の業界におきましては、製造業全般の生産自動化等を企図した設備投資や成長分野への研究開発投資が底堅く推移する中、当社の主要ユーザーである自動車業界では、世界的な脱炭素化の流れを受け、EVや燃料電池等の次世代自動車に係る開発やADAS・自動運転の技術開発には引き続き積極的な投資が見込まれております。また電子・電機業界では、様々な分野で電子化・デジタル化の流れが加速しており、5Gに関連する社会インフラの整備や、IoT等の投資の拡大が引き続き期待されております。しかしながら、世界的な景気減速懸念等を背景に、設備投資の執行にやや慎重な動きがみられ、当社の受注にも一部影響が生じており、引き続き動向を注視しております。このような状況下、当社グループでは、中期経営計画に基づき、計測機器を主体とする基盤ビジネスの強化に加え、4つの重点市場の開拓を目的に5つの事業を推進し、事業領域の拡大を図ってまいりました。

その結果、売上高は61,317百万円（前年同四半期比1.5%増）となり、セグメント利益は3,521百万円（前年同四半期は3,298百万円）となりました。

中国

中国では、販売子会社である電計貿易（上海）有限公司等は、春以降の景気減速等の影響から受注は弱含みでしたが、業績は増収増益を確保しました。一方、受託試験場を運営する電計科技研発（上海）股份有限公司の業績は苦戦いたしました。

その結果、売上高は11,511百万円（前年同四半期比1.6%増）となり、セグメント利益は139百万円（前年同四半期は107百万円）となりました。

その他

その他地域では、インドの販売子会社の業績は苦戦しましたが、タイ・韓国・台湾・アメリカ等の販売子会社の業績は底堅く推移しました。

その結果、売上高は4,999百万円（前年同四半期比12.6%増）となり、セグメント利益は382百万円（前年同四半期は236百万円）となりました。

(参考)

海外売上高

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

	中国	その他	計
海外売上高(千円)	11,585,102	4,883,087	16,468,190
連結売上高(千円)	-	-	71,856,419
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	16.1	6.8	22.9

(注) 1 海外売上高における国又は地域は、販売先(市場)を基準としているため、当社及び連結子会社の日本以外の国又は地域における売上高であります。

2 「その他」の区分に属する主な国又は地域

その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

	中国	その他	計
海外売上高(千円)	11,900,680	5,225,044	17,125,724
連結売上高(千円)	-	-	73,403,889
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	16.2	7.1	23.3

(注) 1 海外売上高における国又は地域は、販売先(市場)を基準としているため、当社及び連結子会社の日本以外の国又は地域における売上高であります。

2 「その他」の区分に属する主な国又は地域

その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて502百万円減少し、63,607百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて798百万円減少し、54,341百万円となりました。電子記録債権が2,560百万円、商品及び製品が2,086百万円増加いたしましたが、受取手形及び売掛金が6,592百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて295百万円増加し、9,265百万円となりました。有形固定資産が合計で101百万円減少いたしましたが、投資その他の資産が合計で409百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて178百万円減少し、34,407百万円となりました。短期借入金が4,095百万円増加いたしましたが、支払手形及び買掛金が4,999百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1,926百万円減少し、1,601百万円となりました。長期借入金が1,913百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,602百万円増加し、27,598百万円となりました。利益剰余金が配当金の支払により925百万円減少いたしましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益を1,998百万円計上したことにより1,073百万円、為替換算調整勘定が合計で508百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,500,000
計	22,500,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,818,507	11,818,507	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	11,818,507	11,818,507	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年12月31日	-	11,818,507	-	1,159,170	-	1,333,000

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である2023年9月30日現在の株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 251,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,474,000	114,740	-
単元未満株式	普通株式 93,507	-	-
発行済株式総数	11,818,507	-	-
総株主の議決権	-	114,740	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式300株(議決権3個)が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式77株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本電計株式会社	東京都台東区上野 5丁目14-12	251,000	-	251,000	2.12
計	-	251,000	-	251,000	2.12

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、井上監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,425,747	8,105,920
受取手形及び売掛金	34,808,157	² 28,215,284
電子記録債権	4,299,742	² 6,860,057
商品及び製品	4,433,463	6,520,319
仕掛品	108,553	277,004
原材料及び貯蔵品	143,435	127,707
その他	3,029,189	4,338,357
貸倒引当金	108,213	102,953
流動資産合計	55,140,075	54,341,698
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,718,400	3,700,368
減価償却累計額	840,101	887,752
建物及び構築物(純額)	2,878,298	2,812,615
車両運搬具	257,405	279,322
減価償却累計額	194,596	205,596
車両運搬具(純額)	62,808	73,725
工具、器具及び備品	2,701,851	2,940,957
減価償却累計額	1,763,270	2,042,932
工具、器具及び備品(純額)	938,581	898,025
土地	2,155,064	2,210,618
リース資産	635,464	691,109
減価償却累計額	374,340	492,281
リース資産(純額)	261,124	198,828
建設仮勘定	3,040	3,270
有形固定資産合計	6,298,917	6,197,084
無形固定資産		
ソフトウェア	282,844	246,704
ソフトウェア仮勘定	48,168	73,268
リース資産	9,969	7,375
その他	56,854	58,688
無形固定資産合計	397,836	386,037
投資その他の資産		
投資有価証券	1,436,575	1,558,039
関係会社株式	26,919	21,991
関係会社出資金	18,431	18,431
長期貸付金	1,980	1,720
繰延税金資産	194,177	213,682
その他	657,877	944,308
貸倒引当金	62,386	75,587
投資その他の資産合計	2,273,575	2,682,585
固定資産合計	8,970,329	9,265,707
資産合計	64,110,405	63,607,405

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,797,078	² 14,797,672
短期借入金	11,137,295	15,232,468
リース債務	116,318	62,791
未払法人税等	671,787	281,698
その他	2,863,538	4,032,567
流動負債合計	34,586,017	34,407,197
固定負債		
長期借入金	3,187,748	1,274,107
リース債務	192,287	180,343
繰延税金負債	38,612	38,735
退職給付に係る負債	109,164	108,205
その他	500	500
固定負債合計	3,528,312	1,601,891
負債合計	38,114,330	36,009,089
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,159,170	1,159,170
資本剰余金	1,417,158	1,417,158
利益剰余金	21,595,515	22,668,936
自己株式	325,591	400,209
株主資本合計	23,846,252	24,845,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	503,998	512,026
為替換算調整勘定	863,721	1,372,640
その他の包括利益累計額合計	1,367,719	1,884,666
新株予約権	19,739	43,942
非支配株主持分	762,362	824,651
純資産合計	25,996,074	27,598,316
負債純資産合計	64,110,405	63,607,405

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	71,856,419	73,403,889
売上原価	62,309,901	62,781,789
売上総利益	9,546,517	10,622,100
販売費及び一般管理費	7,107,641	8,014,893
営業利益	2,438,876	2,607,207
営業外収益		
受取利息及び配当金	51,206	61,473
仕入割引	30,697	38,367
為替差益	14,044	87,316
補助金収入	41,880	59,560
貸倒引当金戻入額	42,056	-
その他	49,591	41,269
営業外収益合計	229,477	287,987
営業外費用		
支払利息	72,980	72,030
持分法による投資損失	6,534	7,413
手形売却損	2,042	1,882
その他	142	1,196
営業外費用合計	81,699	82,522
経常利益	2,586,654	2,812,671
特別利益		
固定資産売却益	592	56,884
投資有価証券売却益	-	439
関係会社株式売却益	-	386
特別利益合計	592	57,710
特別損失		
固定資産売却損	16	-
固定資産除却損	1,625	266
投資有価証券評価損	69,040	-
特別損失合計	70,681	266
税金等調整前四半期純利益	2,516,565	2,870,115
法人税等	847,267	858,240
四半期純利益	1,669,297	2,011,875
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	49,266	13,040
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,718,563	1,998,834

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,669,297	2,011,875
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62,106	8,027
為替換算調整勘定	866,650	562,389
持分法適用会社に対する持分相当額	2,588	2,485
その他の包括利益合計	807,132	572,901
四半期包括利益	2,476,430	2,584,776
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,431,462	2,515,781
非支配株主に係る四半期包括利益	44,968	68,995

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
連結の範囲の重要な変更 当連結会計年度より、新たに設立したDENKEI EUROPE GMBHを連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
税金費用の計算 税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、重要な加減算項目を考慮して税金費用を算定しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形割引高	381,892千円	27,656千円
電子記録債権割引高	1,971,086千円	254,063千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形	- 千円	5,047千円
電子記録債権	- 千円	17,779千円
支払手形	- 千円	212,178千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	310,426千円	394,600千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	470,773	40	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金
2022年11月10日 取締役会	普通株式	352,699	30	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、2022年9月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式172,700株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が251,202千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が282,555千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	520,553	45	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金
2023年11月9日 取締役会	普通株式	404,860	35	2023年9月30日	2023年12月11日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	日本	中国	その他	
売上高				
電子計測機器	21,815,878	4,064,237	1,696,511	27,576,628
製造・加工・検査装置	5,313,976	994,642	415,188	6,723,806
電子部品・機構部品	11,353,789	2,125,143	887,086	14,366,020
PC及び関連製品	4,663,523	872,894	364,367	5,900,784
環境・評価・試験機器	3,881,320	690,125	288,075	4,859,521
画像測定・表面観察	2,827,215	529,183	220,894	3,577,293
その他	6,638,135	1,730,172	484,055	8,852,363
顧客との契約から生じる収益	56,493,839	11,006,399	4,356,179	71,856,419
外部顧客への売上高	56,493,839	11,006,399	4,356,179	71,856,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,909,234	319,679	83,282	4,312,196
計	60,403,074	11,326,079	4,439,461	76,168,616
セグメント利益	3,298,077	107,289	236,409	3,641,776

(注) 1 報告セグメントにおける国又は地域は、販売元を基準としているため、日本から海外取引先への売上高については、上記のセグメント区分「日本」に含まれております。

2 「その他」の区分に属する主な国又は地域
その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	3,641,776
セグメント間取引消去	4,836
棚卸資産の調整額	3,036
全社費用(注)	1,201,100
四半期連結損益計算書の営業利益	2,438,876

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	日本	中国	その他	
売上高				
電子計測機器	22,541,794	4,263,686	1,893,746	28,699,227
製造・加工・検査装置	5,484,053	1,043,176	463,334	6,990,563
電子部品・機構部品	10,893,132	2,072,091	920,334	13,885,557
PC及び関連製品	3,915,170	744,743	330,783	4,990,696
環境・評価・試験機器	3,935,725	708,397	314,639	4,958,761
画像測定・表面観察	3,103,246	590,299	262,185	3,955,731
その他	7,356,885	1,973,333	593,133	9,923,351
顧客との契約から生じる収益	57,230,006	11,395,726	4,778,156	73,403,889
外部顧客への売上高	57,230,006	11,395,726	4,778,156	73,403,889
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,087,319	115,528	221,382	4,424,230
計	61,317,325	11,511,255	4,999,539	77,828,120
セグメント利益	3,521,126	139,215	382,738	4,043,079

(注) 1 報告セグメントにおける国又は地域は、販売元を基準としているため、日本から海外取引先への売上高については、上記のセグメント区分「日本」に含まれております。

2 「その他」の区分に属する主な国又は地域
その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	4,043,079
セグメント間取引消去	14,041
棚卸資産の調整額	7,205
全社費用(注)	1,442,708
四半期連結損益計算書の営業利益	2,607,207

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	146.47円	172.88円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,718,563	1,998,834
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	1,718,563	1,998,834
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,733	11,562
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-円	170.93円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	131
(うち新株予約権(千株))	(-)	(131)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があった ものの概要	-	2023年8月9日取締役会決議 による第2回新株予約権 新株予約権の数 300個 (普通株式 30,000株)

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第79期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当については、2023年11月9日開催の取締役会において、2023年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

配当金の総額	404,860千円
1株当たりの金額	35円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年12月11日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月7日

日本電計株式会社
取締役会 御中

井上監査法人

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 平 松 正 己

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴 木 勝 博

指定社員
業務執行社員 公認会計士 玉 置 修 一

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本電計株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本電計株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。